

法人（事業所）理念	その子の特性を親御さんと共に理解し、その子らしく生きることがを支援する。		
支援方針	その子に合った必要な支援が何かを模索し、その子らしい成長を支援する。 親も、スタッフも、子供と共の成長する。		
営業時間	8時	30分から	17時 30分まで
			送迎実施の有無
			あり
支援内容			
健康・生活	食事と睡眠が安定していることを確認する。また、本人も含め、家族で心地よく過ごせる妥協点を擦り合わせながら、心地よい生活を模索していく。		
運動・感覚	感覚面の過敏さがどのようなものかがあるのかをさまざまな経験を通じて確認し、過敏や鈍麻は学びを進めることでどのように変化していくのかを確認していく。また、運動面の力が、感覚からくる物なのか、協調運動障害から来る物なのかを評価し、どのようなトレーニングが有効であるのか、本人のニーズや意欲によって取り組みの優先順位や課題を決めていく。		
認知・行動	本人の得意とする感覚認知がどのようなルートであるのかを理解を進め、本人の学びやすい認知を用いて、学びを進めていく。行動の歪みがどのような理由で起きやすいのか、またどのような行動で治りやすいのかを理解し、本人が気持ちを整えやすいようサポートする。		
言語コミュニケーション	自分の気持ちの嫌なこと好きなことを表現し、その理由も伝えられるように力をつける。また、集団適応において必要とされる、要求やヘルプ、交渉力をつけていけるようにサポートする。友人関係においては、ありがたさやどうやめんね、そのほか一緒に遊ぶ上で必要とされる関わり言葉や肯定的な気持ちの言い相槌ができるようサポートする。		
人間関係 社会性	困っていることを一人で抱えずに、何がどういう理由で難しいのか、嫌なのかを伝えられるようになる。また、自分に合った支援を一緒に考えてもらえるように、やヘルプや要求で伝えられるようになる。普通であるように頑張らず、自分自身の持っている特性を素直に伝え、できる部分で社会参加できているよう、口頭だけでなく、文章や医療的なケアを含め、伝えられるよう努力を重ねる。		
家族支援	家でどんなことに困るのかを確認しつつ、本人の特性についての理解が深まるようサポートを進め、どのように妥協点が見つけられるかを模索する。また、本人らしく成長するために、家や学校で特別な配慮が必要な際には、どのような配慮をしていくことができるかを相談しながら模索していく。	移行支援	検査結果、当事業所における様子、外部連携を通じて見えた様子等をもとにした報告書を作成し、情報の共有を図る。また、移行後にも訪問を行い、情報の共有を行う。
地域支援・地域連携	外部機関との連携を積極的に行い、訪問支援や訪問先でのカンファレンス等を通じて情報の共有、課題解決に取り組んでいる。	職員の質の向上	事業所内の研修 外部への研修の報告会 虐待防止研修の実施
主な行事等	季節に合わせた行事 1月：初詣 2月：節分 3月：雛祭り 4月：旬ほり 5月：潮干狩り 7月8月：川遊び、花火 9月：お月見 10月：ハロウィン 11月：紅葉狩り 12月：クリスマス会 保護者会：月1回。毎月第二金曜日に行く。		